

食の安全を考える

－日本の食と農の現状から－

雪印問題、BSE感染牛の発見という事件は、酪農を基幹産業とする北海道、特に道東地域にとっては大変ショックな出来事でした。その後も、食品表示の偽装、無認可食品添加物の問題と、食の安全について考えさせる問題が相次いで起こってきています。

わが国の食料供給地域として、また食のブランド力、魅力を活かした発展を目指していくべき北海道にとって、食の安全というのは大変重要なテーマです。

今回の地域経済研究センターセミナーは、一貫して生活者、消費者の立場から取材を続けてこられている読売新聞東京本社の白水忠隆氏をお招きして、食の安全について皆さんと一緒に考えていく場にしたいと思います。

講師 読売新聞東京本社生活情報部次長

白水忠隆氏

モデレーター 釧路公立大学地域経済研究センター長 小磯修二

釧路公立大学 1階 第1会議室

平成14年8月3日（土）午後2時～4時

講師略歴：78年東京大学文学部卒、読売新聞社入社。医療問題、食糧安保問題取材班に所属。チェルノブイリ原発、情報公開、環境問題などを生活者の視点から取材。医療健康問題取材班として日本新聞協会賞受賞。

参加料は無料ですが、参加ご希望のかたは事前にお申し込みをお願いいたします。

釧路公立大学地域経済研究センター 電話 0154(37)5325